

「落ち葉たい肥で超かんたん！生ごみコンポスト 2021」アンケート結果まとめ

募集期間 令和3年7月～10月（延長対応 ～11月）

実施期間 令和3年7月～12月（延長対応 ～令和4年2月）

実施場所 各家庭

内 容 ・各家庭で発生する生ごみ（主に野菜くず）を基材（土*など）に埋め、たい肥化することを体験、実感してもらい、生ごみコンポストへの心理的ハードルを下げる。

・継続のフォローとして、週1回の「コンポスト情報メール」を発信。（19回）

・3回のアンケート（申込時・中間時・終了時）に回答いただき、開始時と終了時に、どのように気持ちに変化があったかを確認。（取組のハードルが下がったか、続けられそうか）

*希望者には、基材の一部として使える京都市内の寺社仏閣の完熟落ち葉たい肥を配布。

アンケート設問 別紙のとおり

（参考）2020年落ち葉たい肥で超かんたん！生ごみコンポスト

・アンケート回答 33（3回とも回答があった数）

・取組期間

5か月 12名、～4か月 10名、無記入 11名

・メール発信回数 16回

・減量した量 487.2Kg（22家族 平均4か月）

【結果】

●参加者数 76

・保育園からの参加 1件。

・事業者からの参加 1件（社内で情報発信）。

・団体参加 2件（①37名、②6名）遅いスタートとなったが、約3か月間熱心に取り組んでいただいた。

団体の方へは、メールでの情報発信ができなかったため、団体内で情報交換いただくよう伝え、途中で電話等で取組状況の聞き取りや声掛けを行った。

●アンケート回収数 第1回申込時 76（＝申込家族数）

第2回約2か月取組後 64

第3回終了時 46（＝全3回回答者数）

●減量した生ごみ量 349.7Kg（76家族、平均3か月）

【参加者の変化（成果）と、取組を続けるための課題】

●生ごみを、基材（土など）に埋めれば、分解・消失することを多くの方に実感していただけた。

●「ごみの量が減り、ごみ出しが楽になった」、「ガーデニングに活用できた」という声を多くいただいた。

●過剰除去を減らしてそもそものごみ発生量を減らすことや、その他のごみに目を向けたという意見をいただいた。

●継続を促すための情報発信メールに対し、返信で状況を報告をくださる方が昨年度より多くなった。

●開始時に不安要素としてあがっていた「虫」と「臭い」は、取組を進めるに伴い気にならなくなる人が多かった。（昨年度と同様の結果が得られた。）

●たい肥として使いたくない生ごみがある場合や発生するごみ量が多い場合は、コンポストを分けることを提案し、実践される方が増えた。

●最終設問の、コンポストを他の人に勧めたいかでは、8割以上の方が、勧めたい・勧めても良いと回答。

●取組の状況（設置場所など）がわからず、アドバイスが適切にできていないことがあり課題である。

●気温が低い時期のモチベーションを、どのように維持するかが課題。

●取組終了後も、継続してもらうための工夫が必要。（同様の事業を継続してほしいとの声は多い。）

●今後の情報発信では、ごみ減量だけでなく別のメリットも伝えていきたい。

（災害時、高齢者のごみ出し支援、生物多様性など）

1 項目別アンケート回答の結果

(1) 開始時アンケート (回答数 76)

① たい肥経験について

事業の一番の目的は、1回でもいいので、生ごみを土に埋めて、消えることを体験していただくこと。すぐに止めてもいいから、まずは一度埋めてみようと呼びかけた。

参加者の7割が、初体験。

② 参加の目的

案内のキャッチに、ごみ出しが楽になることをうたったためか、3割以上が「燃やすごみを減らしたい」と回答。次に、「ガーデニングに活かしたい」と、「とりあえずやってみたい」がそれぞれ3割弱。

③ 不安に思っていること

「虫の発生」、「毎日（毎回）できるか」、「臭いの発生」の順に不安が多かった。

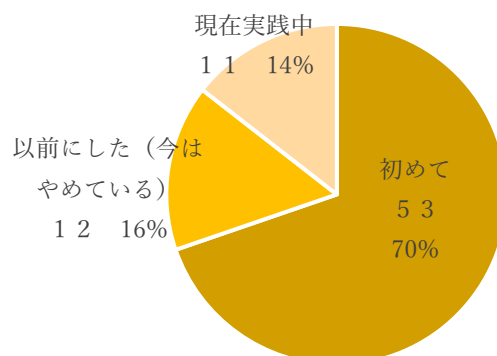
「虫」と「臭い」の不安を合わせると、6割を超える。

昨年度事業でも、同様の結果が得られており、虫への不安が一番大きい。

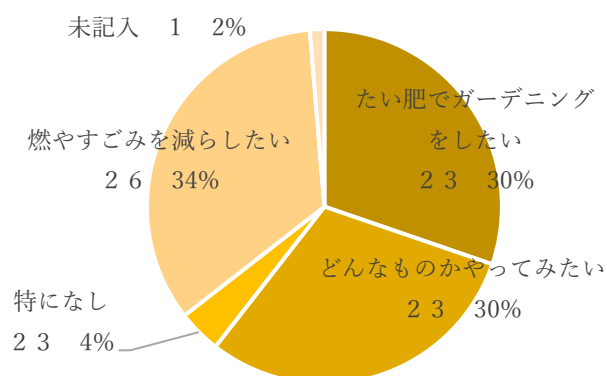
④ 参加の意気込み

初体験と同じ7割に相当する人が、「かなり不安」・「ちょっと不安」を選択。「がんばるぞ!」を選択した人は、以前からの経験者や、昨年度からの参加者である。

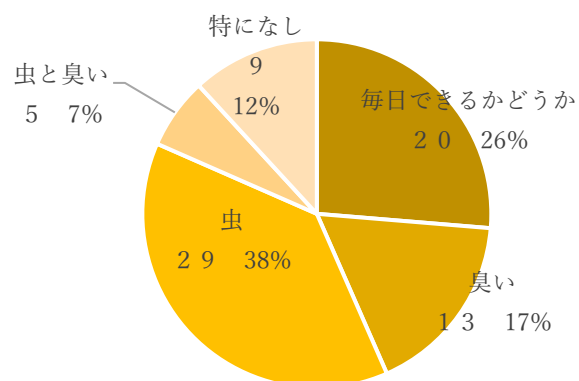
①生ごみコンポストの経験 (開始時)



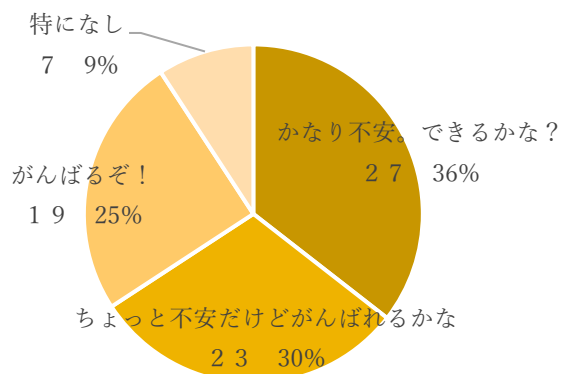
②参加の目的 (開始時)



③不安なこと (開始時)



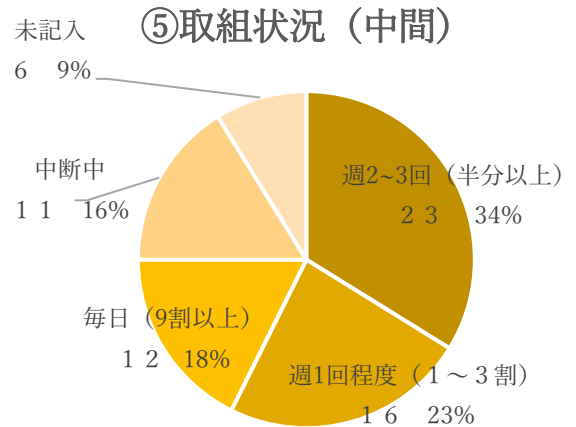
④意気込み (開始時)



(2) 中間時アンケート (回答数 68)

⑤ 1週間で何回(何割)埋めているか

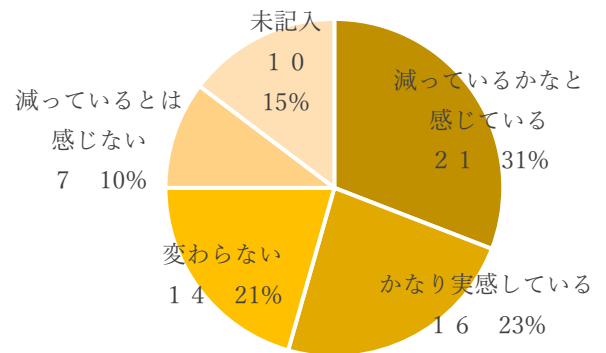
1か月半以上経過した時点で、7割以上の方が継続している。



⑥ 燃やすごみが減っていると感じているか

約半数が、「減っていることを実感」している。

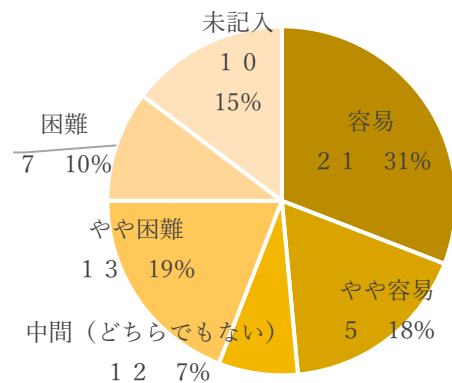
⑥燃やすごみが減っていると感じているか (中間)



⑦ 期間終了まで続けることについて

1～3か月の取組をしたうえで、約半数が、「容易・やや容易」と回答。一方、「やや困難」、「困難」と回答した人も、3割弱。

⑦期間終了まで続けることについて



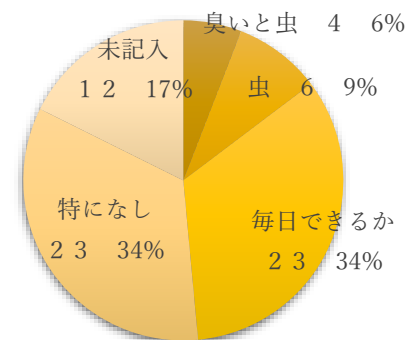
⑧ 不安や気がかりなこと (中間時点)

「特になし」と「毎日(毎回)できるか」が、どちらも3割超。

開始時に6割を超えていた「臭い」や「虫」への心配は減少し、心配するほどでなかったと多くの方が感じていることがわかる。

*なお、開始が遅かった人は11月～12月に体験しており、季節的に虫が少なかったためという回答もあった。

⑧中間時点での不安や気がかり

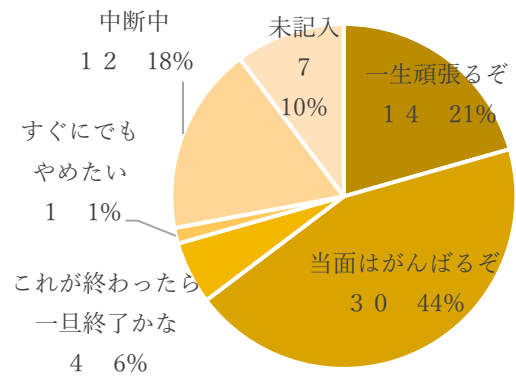


⑨ 後半への意気込み

この取組を「最後まで継続できそう」との回答は7割を超えた。その内のほとんどの人（全体の6割）は、事業が終わっても継続できそうと回答。

「一生涯がんばるぞ！」と回答した人は2割。事業への参加に留まらず、ライフスタイルとして定着していると考えられる。

⑨後半への意気込み（中間）



○参加者からの報告（中間時点） * 抜粋

困ったこと・続けにくさを感じること

- ・虫が湧いた
- ・土の量が少なく埋めにくい
- ・水分量の調整が、うまく出来ていないように感じる
- ・適切な置き場所が難しい
- ・寒い時期は変化が無く楽しくない、習慣になるまで何度もやめなくなった
- ・家族の負担（不満）、刻む手間が面倒、発生する生ごみ量が多く埋められない、

良かったこと・続けようと思えること

- ・埋めると分解することを実感できた、習慣になってしまえば楽しい、
- ・食品を買いすぎないよう気を付けるようになった
- ・他のごみ分別（プラ、紙、食ロス）にも意識がいくようになった、
- ・生ごみが減る野菜の切り方を考えるようになった、
- ・牛乳・納豆・ヨーグルトなどの容器をすすぐ水を有効に活用できるようになった（下水の負担も減）
- ・ごみが減り、ごみ袋が軽くなった、燃やすごみを出す頻度が減った、ごみがピシヨピシヨなくなった
- ・困りごとを相談できることがよい
- ・2つのコンポスト容器を使い分けると続けやすい

(3) 終了時アンケート (回答数 45)

⑩ 埋めた期間

7月～9月の募集期間に加え、団体申込で11月まで参加があったため、取組期間にはバラツキがある。

やってみようと思ったが、コンポスト容器の置き場が無かったことなどにより、継続が難しかった方が15%程度あったが、他の方法(水切り、過剰除去を減らす)で取り組むと宣言する参加者もあった。

⑪ 埋めた重量 (グラフなし)

350Kg

*一人あたり一日80g排出として、家族人数と取組日数で算出してもらったもの。

⑫ 虫が気になったか

開始時に5割近くが、中間では2割未満が不安に感じていた。終了時も、約2割の方が時々気になったと回答。

⑬ 虫を受け入れる気持ちになれたか

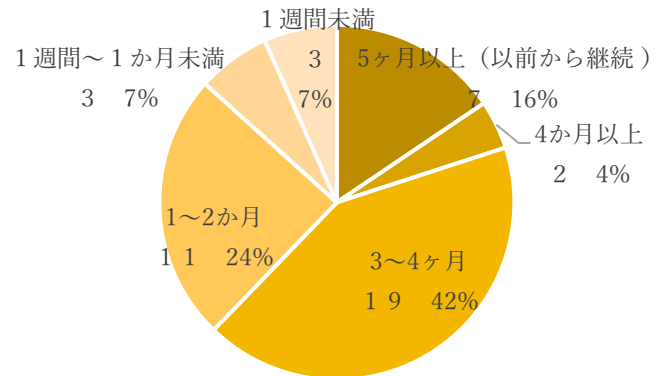
開始時から、虫を完全に排除することは難しく、分解は虫や微生物の働きによって行われていることを伝えてきた。

虫がいなくなれば、生き物すべてが生きられないことをコンポストを通じて実感していただき、その役割への理解が少しでも進んだとしたら、うれしい。

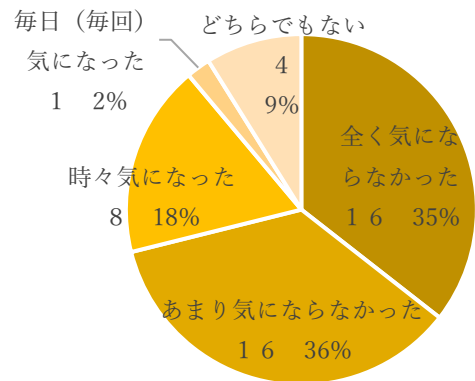
⑭ 臭いは気になったか

開始時は2割強の人が不安にあげていたが、中間では1割未満となっていた。改めて、臭いだけについての設問では終了時は気にならなかったという人が8割近くとなった。

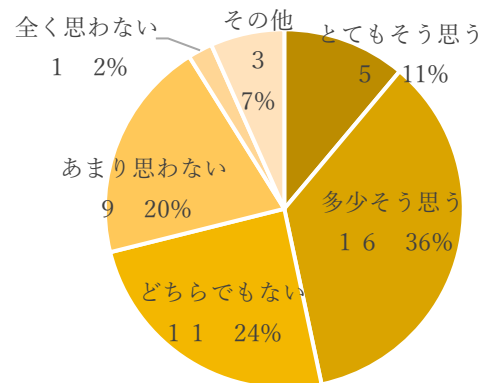
⑩取組期間 (終了)



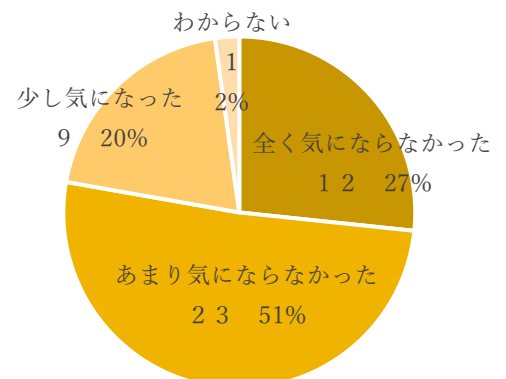
⑫虫は気になりましたか (終了)



⑬虫を受け入れようと思うか?



⑭臭いは気になったか (終了)



⑮ 皮や種まで食べることについて

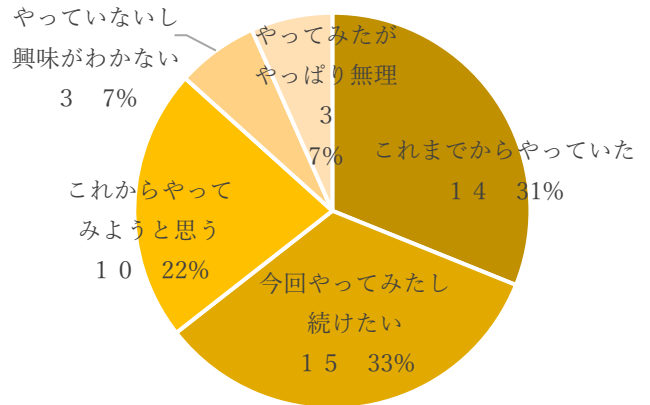
コンポストを続けるためには、そもそもの出す量を減らすことが大切。

過剰除去に気づき、ちょっと意識することで、野菜くずの排出量がかなり減ることを、連携講座でも啓発しました。

すでに実践している方が3割。

今回やってみて、今後も続けたいという方が3割！

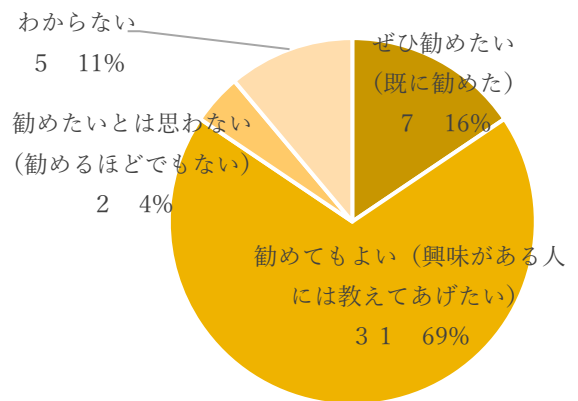
⑮皮など食べること



⑯ コンポストを他の人に勧めること

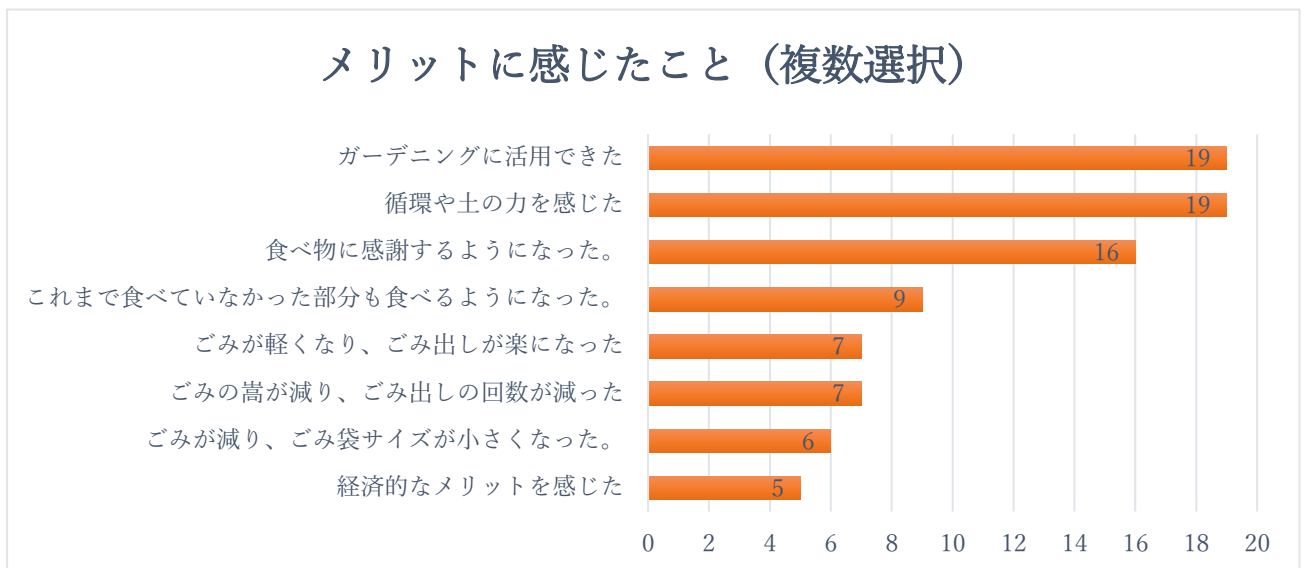
8割以上の方が、ぜひ勧めたい・勧めてもよいと回答。コンポストに取り組むメリットを感じていただけたようです。

⑯コンポストを周りに勧めたいか



○コンポストをしてメリットに感じたこと

(選択 & 自由記述)



●その他コメント

- ・全ての項目(メリット)が当てはまりました。
- ・メリットにあてはまるもの無し

終了時アンケートでの感想等（自由記述）

【食べ物との付き合い方】

- ・今まで捨てていた部分もスープ、きんぴら、ぬか漬けなどして利用するようになった。
- ・人参の皮をむかずに料理するようになった。切り方を意識して、可食部分が多くなった。

【ごみの量】

- ・もともと野菜の皮や葉は食べていたので、2人暮らしで5ℓ袋で取まっていたのがさらに半分位になりびっくり。
- ・コンポストに負荷をかけないよう、無駄な買物が減り、食材の活用法も覚える事ができました。
- ・冷蔵庫の中が自然に整理整頓され、スッキリ！
- ・ごみが減り、2週に1回10リットルの袋1枚で済むようになった。
- ・ごみ出し回数が減(週2回→2週に1回)、ごみ袋のサイズも小さく。
- ・生ごみコンポストは、生ごみを自宅で処理してごみの減量ができ、燃やす処理費・CO2削減で地球温暖化防止の一助、地球環境保全に貢献していることとなります。その意義を理解して、これからも継続して取り組みたいと思います。ご近所の方は、来年も続けよ々と仲間で話してと言われてました。
- ・我が家はマンションなので、ゴミがたまれば毎日でも出していますが、処分する生ごみが出ない日があるなど、腐敗しやすい夏場などは、良かったのではないかと考えています。それから種から育ったトマトですが、その後もまだ黄色い花も咲き出して机の高さで、枯れないで元気に育っています。

【子ども、家族】

- ・子どもが関心を持つようになった。
- ・ゆっくり分解したり、入れ過ぎると消化不良になったり、コンポストに愛着が湧いてペットのように楽しかったこと。
- ・ベランダ菜園で土を使えること。離乳食の残りなど、子どもが生まれてから生ごみが以前より増えたが、ごみに捨てるよりコンポストに入れたら罪悪感が少ないこと。
- ・子どもに土や循環についておしゃべりするよい機会になったこと。園芸の土を買ったり、生ごみ消臭袋やごみ袋を使う回数が減ったりしているのでおそらく節約になっていること。
- ・循環や土、微生物や虫の働きについて意識するようになった。ごみも減り、家族の協力もあり、良いことづくめ。少しでもごみを減らすことが出来、時代をよいものにしていく事に参加できた。心の贅肉が少しずつ減っている。今までは生活に無駄が多かった。
- ・家族が多いとごみの量も多いので、もう少し土を増やそうと思う。

【ガーデニングなど】

- ・ガーデニングに活用でき、植物が大きく育ったことが嬉しかった。
- ・ガーデニングに活用できた。あるいはそのことを期待。使ったけど、花が咲くのは来春なので。
- ・プランターで緑を育てるようになり土を触るのが楽しかった
- ・循環や土の力をまだ感じてないが、継続観察中。
- ・生ごみが土になるのが面白くて楽しく続けられました。

○その他感想

- 環境に配慮しているのが分かり、良いことをしている気分だった。
- 環境問題を考えることで社会的な問題にも目を向けるようになり、視野が広がりました。

- コンポストを始めた事で環境問題への関心が高くなりました。
 - これからも 京都市ごみ減の主要な取り組みの一つとして啓発してください。
ただ、理解してもらうこと、実践する人を増やすことは なかなか大変だと思います。
 - 興味はあるけど 1 人では始められないという方も多い気がします。友人にも紹介していきたいので、引き続きよろしくお願いします。
 - 空いているプランターを利用して始めましたが、臭いや虫もあまり気にならずこれからも続けていこうと思います。
 - 取組みも慣れたので生ゴミは殆ど出さなくなりました。お金をかけず省エネで行っております。ずーと続けます。
 - 続くか分からなかったが、思ったよりカンタンで手軽にできた。戸建で外がすぐだという状況もあったかもしれない。ガーデニングに活用できる土もどんどん作れて楽しかったし、これからも続けたい。
 - 大きなドラム缶の容器で、子どもの頃（数十年前）に生ごみコンポストを実行していた記憶があります。当時は、かなりの量を投入していたので、においや虫の発生が、気になっていました。
 - 庭を大事にすることにつながれば良いと思います。本当は畑まで使えるようになればと思います。
 - 友達の中に昔からやっている人がいるが、その人は田舎出身で知識がありできていると思っていた。私のように年取っていても子どもの頃から土に縁がなく、集合住宅住まいでは無理と思っていたのに、やる気を引き出していただいて、ありがたい。人にすすめるは出来ないが、自慢はしている！
 - コンポストで堆肥を育てている人たちが同志のように思え、その育て方が間違っていないか確認できてよかった。町内の各所に生ごみを入れて堆肥を育てるコンポストが設置されるといいなと思った。
 - 始めは様子見だったが、少しずつ実感が出てきた。これから投入頻度を上げていきたい。
 - 暑い時期はあんなに楽しんでやっていたコンポストも、寒さと共にブームが去り、段ボールのまま今はひっそりと出番を待っています。気持ちもこんなに気温に関係するのだとびっくりしています。また暖かくなったら段ボールを新しく、チャレンジする予定です。段ボールの交換も少々面倒なので、何かいい方法はないかと思っていますが…とても良い経験ができました。これからも続けます。ありがとうございました！
 - 生ごみをいつまで加えるのか？？？仕上げるまでどの程度続けるのか？？？
 - 食べきりや水切りなど、他の事でごみを減らすほうが、私にはあっているように思いました。
-